



北部地域住民自治協議会 副会長就任あいさつ

北部地域住民自治協議会
副会長 中村 茂

皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃は、北部地域の振興にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

私は、令和3年5月より副会長に就任しました中村茂と申します。地域では外旭川地区振興会の会長を務めております。就任した年にキタスカ開館10周年記念事業実行委員会の副委員長として記念行事を開催出来たことに、心より感謝を申し上げます。お陰様で新型コロナウイルス感染症防止対策を講じ、一部規模を縮小しての開催ではありましたが、北部地域の皆様のご理解とご協力により盛大に終えることができました。

さて、秋田市の明るい話題の一つとしては、昨年3月に泉外旭川新駅が開業され、通勤・通学・買い物・マイカーを手放した皆様の利便性の高い駅として愛されております。また、外旭川まちづくり構想も大きく前進しており、新駅と外旭川まちづくり構想である卸売市場の建て替え、新スタジアムの整備、複合施設構想との相乗効果が期待できると確信しております。人口減少が進む中、経済の活性化と秋田市民に希望と元気を与える構想であり、外旭川だけではなく北部地域、秋田市の重要課題でもあります。アフターコロナを見据えて県外からも多数の方が訪れる魅力のあるまちづくりを実現することにより、交流人口を増やしモデル地区として若者が秋田に住みたいと思ってもらえるような、賑わいのあるまちづくりになる事を期待しております。

そこで、秋田市では令和4年1月11日より、外旭川地区まちづくり事業パートナーの公募を開始し、3月下旬頃に民間事業パートナーが決定されると伺っております。

結びに、外旭川まちづくり構想の早期実現に関し、北部地区の多数の振興会、町内会連合会のご支援とご理解に感謝を申し上げ、北部地域の今後の発展と新型コロナウイルス感染症が収束することを願い就任の挨拶いたします。



サークル紹介

大正琴サークル
代表 宇佐美 怜子



このサークルは昭和60年、当時秋田市内の公民館では初の大正琴サークルとして活動を始めました。

当初たくさんいた仲間も、長く続けていく中で様々な事情により退会する方も多くなりました。現在は少人数ですが、ご指導くださいます先生と共に、80~90代という年令を忘れて大正琴を楽しんでおります。

【例会日：第2・4金曜日 10:00 ~ 13:00】



ダンシング・ファミリー
代表 青木 茂

土崎公民館主催のダンスパーティーを機に“若さと健康をいつまでも保ちたい”と気が合う仲間が集い、昭和62年4月に『ダンシング・ファミリー』を立ち上げました。以来、気軽に元気に社交ダンスを楽しんでいます。

現在の会員は10名ほどですが、指導者を迎えて月4回積極的に練習に励んでいます。

若さと健康を得て楽しむために、貴方と貴女の入会をお待ちしております。

【例会日：第2・4金曜日 10:00 ~ 12:00】

キタスカ開館10周年記念公演会

キタスカ感謝祭

～ギバちゃんとキタスカへGO～

お陰様でキタスカは平成23年5月16日開設以来、令和2年に10周年をむかえました。コロナウイルスの流行により、令和2年の10周年記念事業の開催は叶いませんでしたが、11年目の令和3年11月6日に、進行役に石垣政和さん、秋田の名優柳葉敏郎さんと、イカサマジシャンブラボー中谷さんをお迎えし、盛大に開催することができました。今後も皆様のご協力をいただきながら、魅力ある施設運営に努めてまいります。



これが..
こうなる!



『奥様兼助手』マジック
成功の秘訣は内助の功?



ステージパフォー
マンス最高!



ありがとう!

公演会には 320 名のご参加がありました。
ありがとうございました!



キタスカ発表会

毎年恒例のキタスカまつりですが、今年は登録サークルの皆様による『キタスカ発表会』としての開催となりました。
コロナ禍のため活動発表の機会が少なくなった中、参加サークルの皆様には、日頃の活動の成果を存分に発揮していただきました。
ご参加いただきありがとうございました。

芸能発表

11月30日(火) 地域文化ホール



参加サークル

土崎民踊 如月会
秋田市民踊同好会
みなと太極拳
土崎民舞扇豊会
愛祭会
花架拳
土崎港伝統芸能伝承会



展示発表

11月22日(月)～12月6日(月)
展示ホール



参加サークル

書秋会
墨翠会
春友会
ローズ・サークル
裂き織りサークル
グレアカ工芸同好会



～北部地域～

ぐるっとまち歩き



第4回 将軍野

将軍野地区町内会連合会
会長 伊藤 勉



*鳥瞰図とは、
地表面を上空から斜めに見下ろしたようすを図に描いたもの。

将軍野地区には、秋田城跡史跡以外は歴史的なものはないと思っていましたが、町内会連合会の11町内会の中で遊園地と名のつく町内会が北・南・東と3つあります。

そのルーツを探ってみました。

そもそも、遊園地は、実業家栗原源蔵が私財を投じて将軍野の原野を開拓し、5年かけて建設したものでした。

栗原源蔵は、埼玉県入間郡富士見町（現在の富士見市）の商家に生まれましたが、家業の倒産により、小学校を3年で中退、18歳で日本土木の給仕となりました。まもなく中国大陸にわたり、軍夫やとび職などをしながら転々とした後、鉄道建設下請業の栗原組を設立しました。明治34年に奥羽本線敷設工事のため秋田に移住、42年には韓国に移りますが帰国して早川組の顧問を務めました。

大正6年に秋田に戻り、羽越線や五能線の開通工事を請け負い、巨利を博します。

昭和8年には秋田県建設協会の初代会長に就任し、22年まで在職。秋田県建設業界の風雲児と呼ばれました。

この間、私立中学校の創立、電車経営にあたるなど都市基盤の整備にも尽力しました。その中の事業の一つが遊園地の建設と運営でした。鉄道建設で利益を得た栗原は、将軍野遊園地の建設を思い立ち、昭和5年には東北一の娯楽施設として完成し、多くの人に親しまれました。施設には、遊戯場、水遊場（ボート遊び）、演芸場、野球場、プール、陸上競技場、角力場（相撲場）、テニスコート等を備えていました。

その後、跡地に将軍野中学校が建設され現在に至りますが、以前の面影はほとんどなく、旧帝石野球場として使われていた一部がわずかに残っているだけとなりました。遊園地と名が付いたのはその地を中心に、北・南・東町内会になったといわれています。

栗原は、路面電車の秋田電気軌道の再建など、秋田市の都市づくりにも大きな足跡を残しましたが、電車は昭和41年3月31日廃止になってしまいました。

将軍野コミセンには栗原源蔵の肖像画が飾られています。
興味のある方はご覧になってください。



北部市民サービスセンターでは、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、入館時のマスク着用のご協力をお願いしております。

また、貸室のご利用の際には、消毒・換気・対人との距離などにご注意のうえ、感染拡大を防ぐため、『体調が優れない』『発熱がある』方のご利用はお控えくださいますようお願いいたします。



マスクをしよう

